

ONSA-ニュース

発行 平成5年7月
 大阪ニュークリアサイエンス協会
 印刷 東洋紙業高速印刷株式会社

「アマゾン型」の研究と「警視庁型」の研究

京都大学原子炉実験所長 西原 英晃

今から34年前、中谷宇吉郎先生は科学研究を「アマゾン型」と「警視庁型」に分類されている。(注)前者はアマゾンの上流で新種の生物を発見するような場合で、やってみなければ何が出来るか分からないような研究である。これに対し後者は、確かに「犯人」がいることは分っていて、これを捕えるのには捜査員とお金と時間をかければよろしい、という種類のものである。どちらの種類の研究も重要なのだが、中谷先生は二つの型を融合したものが本当の研究だ、と言っておられる。

後者の典型的な例として、先生はアメリカの委託研究について触れておられる。当時日本は戦後の復興期から脱して、原子力平和利用研究が始まったばかりであり、先生はその行先を案じておられたようである。先生の御専門の「雪」に近いところにウィルソンの霧函がある。これは空気中の水蒸気が凝縮するとき、イオンが核となることに着目しての研究であったのだが、その途中で放射線粒子の飛跡の可視化を見出した訳で、典型的アマゾン型研究として中谷先生が評価されているところからも、先生の御気持ちが分るような気がする。

このところ、原子力研究はどちらかと言うと「警視庁型」に流れてきたかの観がある。大規模な開発型の研究はそうであろう。研究炉を使った研究も得てしてそのように思われがちであるが、大学での研究は、第一義的にはロマンのある「アマゾン型」であると考えたい。「アマゾン型」の研究のためにはある程度自前の「流域」が必要である。大学研究炉はその流域の中に、今まで発見されなかったような多くの宝をまだまだ内蔵している。原子力平和利用先進国のわが国として、大学研究炉は量質ともまだ未整備である。今後とも各方面の御理解、御援助を賜りたい。この場をお借りしてお願い致します。

(注) 樋口 敬二編、中谷宇吉郎随筆集
 (岩波文庫)

目 次

○「アマゾン型」の研究と「警視庁型」の研究 京都大学原子炉実験所長 西原 英晃 …	1
○研究所紹介 ……	2
日本原子力研究所その2	
○平成5年度通常総会〔報告〕 ……	6
平成4年度事業報告及収支決算 平成5年度予算その他	
○ONSA受賞論文(その1) ……	13
(1)応用研究 放射線インジケータインキ 光陽化学工業(株) 河田 章 ほか	
(2)基礎研究 中性子ラジオグラフィによる 液体金属の流れ可視化を計測 神戸大学工学 竹中 信幸	
○研究会参加のご案内 ……	17
○行事案内 ……	17